

新技術・情報名	産卵鶏の育成体重奇一化による経済性向上	推進部会名	畜産
実施場所	三重県農業技術センター畜産部	分類	※ ①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

- (1) 産卵鶏(ノーリングロス)を体重別に大、中、小の3グループに分け、16週齢時より大グループには10日間、中グループには6日間の絶食処理を施すことにより育成体重の奇一化を図る。
- (2) 育成体重(20週齢時)は、自由摂取させたものに比べて奇一化される。
- (3) 成鶏期の産卵性、飼料利用率には差は生じないが、絶食処理により育成期の飼料摂取量は節約される。
- (4) 性成熟が遅れることにより初産時卵重は増大し、成鶏期間の生産卵の重量規格別の割合においては、わずかながらM卵以上の比率が増加し、M.S卵以下の比率が減少する。

2) 技術・情報の適用効果

- (1) 奇一化を行うに当たり、絶食処理を用いていることから実施上簡便な方法である。
- (2) 育成期の飼料摂取量が1羽当り約200g節約されるため、育成費の節減となる。
- (3) 成鶏期の産卵性、飼料利用率は変らないが、育成期の飼料摂取量の低下により、1羽当り経済性が向上する。

3) 適応範囲

- (1) 県下全域の採卵鶏農家

4) 普及指導上の留意点

- (1) 絶食処理中は悪癖の発生が予想されるため、単飼ケージに移動してから処理を施すこと。
- (2) 処理中の疾病予防等の衛生対策には、十分な配慮を行うこと。

2. 具体的データ(図表)

(1) 育成期の成績(0~20w)

区分	0~20w	20週齢時体重	0~20w1羽当り	初産日齢 (日齢)	初産時卵重 (g)
	育成率(%)	変動係数	飼料摂取量(g)		
自由摂取区	100	9.88	8.034	144.4	42.2
処理区	100	7.00	7.852	149.0	43.6

備考 処理区の処理内容は 大グループ 10日間絶食  
中グループ 6日間絶食  
小グループ 自由摂取 } とした。

(2) 成鶏期の成績(20~80w)

区分	産卵率 <sup>(%)</sup>	産卵日量 <sup>(g)</sup>	平均卵重 <sup>(g)</sup>	飼料日量 <sup>(g)</sup>	飼料要求率	生存率 <sup>(%)</sup>
自由摂取区	80.1	47.8	59.6	120.6	2.52	98.3
処理区	79.6	47.9	60.0	121.7	2.54	96.6

(3) 生産卵の重量規格別割合(20~80w)

区分	重量規格	(%)					
		I期 20~32w	II期 32~44w	III期 44~56w	IV期 56~68w	V期 68~80w	I~V期 20~80w
自由 摂取 区	規格外(外)	2.2	—	—	—	—	0.5
	S.S	12.6	—	—	—	—	2.6
	S	28.3	5.2	1.9	1.6	1.2	7.9
	M.S	46.7	46.9	28.5	18.1	16.2	32.6
	M	9.7	44.0	55.7	55.3	48.9	42.4
	L	0.5	3.7	12.4	20.7	26.4	11.7
	L.L	—	0.2	1.4	4.1	6.6	2.2
規格外(内)	—	—	0.2	0.2	0.7	0.2	
処理 区	規格外(外)	2.4	—	—	—	—	0.5
	S.S	10.3	—	—	—	—	2.0
	S	27.9	5.8	1.9	1.7	1.5	7.8
	M.S	46.1	41.0	26.6	17.8	17.9	30.8
	M	12.8	47.1	55.9	55.6	50.0	44.4
	L	0.5	5.6	13.4	20.3	23.8	11.9
	L.L	—	0.5	1.8	3.6	5.2	2.0
規格外(内)	—	—	0.5	1.0	1.6	0.5	